

令和5年度

学校自己点検・評価報告書

令和6年6月

学校法人朝日学園  
成田国際航空専門学校

## ○令和5年度 学校自己評価について

成田国際航空専門学校は、「工業分野」の専門課程の認可を受けた専修学校として、わが国の航空産業諸分野の中核を担う優れた人材を育成し社会の発展に寄与することを目的として運営されています。また、平成26年度に文部科学省から「職業実践専門課程」と認定された航空整備学科、およびグランドサポート学科では、航空分野の諸企業との密接な連携のもとに、「学校運営の適正化」および「教育内容の充実」が図られています。

本校では、平成25年4月に定めた「自己点検・評価規程」に従って、学校自己点検・評価委員会を設置し、「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って本校の運営および教育活動について自己点検・評価を実施しています。

### 1. 対象期間

令和5年4月1日 ～ 令和6年3月31日

○委員会開催 令和6年5月29日(水) 13:50～15:40

### 2. 実施方法

(1)学内に「学校自己点検・評価委員会」を設置し、委員会を中心に教職員一同により評価を行っています。

委員会構成:委員長 副校長

委員:教務課長、航空整備学科長、グランドサポート学科長

(2)評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に行いました。

(3)評価は年一回行います。

(4)評価結果は、課題と改善についてホームページにて公表します。

### 3. 自己評価は、以下の10項目を実施します。

(1)教育理念・目標

(2)学校運営

(3)教育活動

(4)学修成果

(5)学生支援

(6)教育環境

(7)学生の受入れ募集

(8)財務

(9)法令等の遵守

(10)社会貢献・地域貢献

## ○評価項目の達成及び取組状況

### (1)教育理念・目標 評価 4.0

(1)教育理念・目標		評価 : 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	
評価項目	評価	状況と課題	【今後の改善方策】
1 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4	学校の教育理念は、就学規程に明記されている。 現教育理念「学徒の意志を尊重し、世を支える現場力を見据え、全人教育を旨とし、実践と反省と改善を継続し、自発力ある人材を育成する。」(就学規程2条)	1～5 ・令和3年4月1日付けで経営母体である法人本部が変更となり(学校法人筑波研究学園から学校法人朝日学園)学校設置者を変更した。そのタイミングで学則、就学規程を改訂した。引き続き学生、保護者、教職員間の共通理解を図っていく。
2 学校における職業教育の特色を示しているか	4	航空分野に特化した科目の設定を行い、航空業界を担うグローバルな人材の育成を教育目標としている。また、関連機関・企業との教育連携を通して実戦的な人材を育成することを特色としている。	
3 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	社会経済の状況と航空業界、及び地域社会のニーズと将来性を見据えた将来構想を策定している。	
4 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	学校の理念・教育目標、特色・将来構想などは、ホームページで公開され、学生・保護者を始め一般に周知されている。	
5 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	学校、学科の教育目標・育成人材像は、各学科において業界研究を行い、学科会議や教育課程編成委員会等を通して決定している。	

## (2) 学校運営

評価 4.0

(2) 学校運営		評価 : 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	
評価項目	評価	状況と課題	【今後の改善方策】
1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	学校の運営方針は「革新的かつ安定した経営により学生が勉強に専念できる環境を整備し、教職員が働きやすい環境を作るとともに、地元との共生を図り、当校の関係者すべてから愛され、誇りに思われる学校を目指します」と定めている。(HPIに記載されている)	
2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4	事業計画は、将来構想、教育活動の実績を踏まえて策定され理事会・評議員会において承認を得ている。(令和5年度理事会にて令和6年度事業計画を承認)	2: 航空専門学校として安定的な運営には若い教員の確保は欠かせない。又、教員採用にあたり、適切な人員計画の基に早目の人財確保が不可欠である。
3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	学校の意思決定は、隔月の校務会議(必要により臨時校務会議)により決定されている。また、会議の運営については、業務実施要領「会議体要領」に規定されている。	3: 校務会で決定された事案については、各学科内にて情報共有されている。
4 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4	学校の人事、給与に関する規程等は定められており、法人本部事務局において管理している。	4: 人事・給与に関しては、種々の雇用形態があり、法人本部にて一括管理している。就業規則は各人に明示している。
5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	学校の組織整備等の意思決定は、校務会議での方針決定を経て法人本部で最終決定される仕組みとなっている。	
6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	航空業界や関連企業等との関係は密接な連携や求人採用等を通じた関係強化、社会規範の遵守を心掛けている。地域との関係は良好な関係を築いている。	6: 地域との関係性維持のために、地域住民の意見に耳を傾け、騒音対策・学生マナーの向上等改善を継続していく。
7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	情報公開は、ホームページ等で行っている。また、学校関係者評価、教員情報、職業実践専門課程認定学科基本情報(様式4)は年度毎に更新し、常にホームページ上で最新の情報を公開している。	7: 引き続きSNS(インスタグラム)での情報発信を継続するが、教育風景を織り交ぜ、より分かり易い情報の発信を行っていく。* エックス(旧ツイッター)はセキュリティーの関係でR5年度から取り止めた。
8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	学校法人の学校管理システムにより、学生の情報管理がシステム化されており、効率化が図られている。	

(3)教育活動

評価 3.8

(3)教育活動		評価 : 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1		【今後の改善方策】
評価項目	評価	状況と課題		
1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程は、教育理念に沿って編成・実施方針を策定している。</li> <li>・航空整備学科整備士コースは『教育規程』、技術コースは『教育基準』にそれぞれ定めている。</li> <li>・グランドサポート学科は『教育基準』に定めており、両学科・各コースとも管轄省庁(文科省、国土交通省航空局)に届けている。</li> </ul>		<p>1～3:教育課程は教育理念を踏まえ、各専門分野の業界団体等が参画する教育課程編成委員会から提言を受けたうえで、設定や見直し等を実施している。引き続き継続する。</p> <p>4～5:航空整備学科『技術コース』は訓練課程の認証を得ていたが、令和4年度末で認可を返上した。その関係で、技術コースのカリキュラムの変更を実施した。</p> <p>6:各専門分野の職業教育を一層充実させていくためにも、関連行政機関、業界団体、企業等との連携を継続して図れるよう今後も柔軟に対応して行く。航空整備学科に於いては、ANAとの連携がない状態であたが、R6年度中の連携を検討する。</p>
2 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育達成レベルは、就学規程に記載されている。又、学習時間は学則・教育規程・教育基準に規定されており、それぞれ管轄省庁(文科省、国土交通航空局)に届けている。</li> <li>・学習時間の確保に関し、上記規定を基に策定した教育計画に沿ってその進捗状況の管理を行っている。</li> </ul>		
3 各学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	カリキュラムは、学科別に教育理念を踏まえて体系的に編成している。		
4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	<p>4～5:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念を踏まえ、各専門分野の業界団体等が参画する教育課程編成委員会から提言を受けたうえで、設定や見直し等を実施している。</li> <li>・一昨年度に引続き、航空局への届出が必要な規程・基準以外の航空整備学科カリキュラム一般科目(*)について見直しを実施した。</li> <li>(*)一般科目:SPI、英会話、危険物、自由研究課題等。</li> </ul>		
5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4			
6 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科は各専門分野の企業と連携し、年度計画を基に外部実習や外部講師による演習授業を導入して職業教育の充実を図っている。</li> <li>～昨年度は、新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に移行されたこともあり、以前の活動状況にほぼ戻った。連携企業の協力が得られ以下の実績となった。</li> <li>・昨年度(令和5年度)の実績 航空整備学科:3社、7回 開催する事が出来た。 * 令和4年度の実績は3社8回。 グランドサポート学科:6社、7回 開催する事が出来た。 * 令和4年度の実績は5社6回。</li> </ul>		

7	授業評価の実施・評価体制はあるか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生からの授業改善アンケートをもとにした授業評価体制が整備されている。</li> <li>・R5年度のアンケート実績 航空整備学科は全学年対象に 航空整備士コース 35教科、技術コースは15教科を実施した。</li> <li>グランドサポート学科は全学年対象に21教科実施。 (1年:12教科、2年9教科)</li> <li>各学科にて学生よりの意見を参照し、今後の教育に活かしている。</li> </ul>	7: <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価実施後のフォローアップ体制を継続し、カリキュラム充実に繋げていく。</li> <li>・アンケートの実施につき、可能な限り多くの教科で実施するよう取組んで行く。</li> </ul>
8	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	教育課程編成委員会を毎年度2回(*)開催し、関連企業等からの評価を取り入れている。(*)R年度実績:8/8日、1/24日開催。	
9	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は、専門学校設置基準をもとに就学規程(第11条、第11条の2)で明確に定められている。また、省庁の認定学科に定められた基準を遵守している。	
10	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科では、資格取得の指導体制、目標資格等に対するカリキュラムを体系的に構築している。また、放課後や休業期間中に対策授業等を実施し、実績向上に繋げている。</li> <li>・主な取得資格:二等航空運航整備士(航空機整備学科のみ)、航空特殊無線技士、危険物乙四種、フォークリフト、ガス溶接、英語検定</li> <li>~R5年度から英検資格取得に向けた取組みを強化した。</li> <li>・英語検定の会場を当校で出来るよう準会場として復活させた。</li> <li>・航空整備学科では、英会話の授業内容を一部変更し英検資格取得に向けたカリキュラムに変更した。</li> </ul>	10: <ul style="list-style-type: none"> <li>・航空整備学科整備士コース:航空従事者養成施設として対象者全員の資格取得に向け取組んでいる。</li> <li>・上記以外の学科、コースに於いては、各種資格取得に向け取組んでいる。</li> <li>・R6年度、航空整備学科はカリキュラムの授業時間の変更を実施。 航空整備学科 整備士コース 英会話:1年生 14 ⇒ 30時限に変更 2年生 20 ⇒ 30時限に変更</li> </ul>
11	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	本校の教員体制は、省庁や検定協会などの認定要件を満たしている。	
12	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科の教育内容に応じた教員確保は、かなり厳しいものの連携企業からの出向者にて対応している。</li> <li>・グランドサポート学科は、グランドハンドリング実習(1,2年生)に企業から2名の講師を受入れ対応している。</li> <li>~R5年度実績は延べ39日間、2人分で246時限担当していただいた。</li> </ul>	12: <ul style="list-style-type: none"> <li>・前述(2)学校運営2項と同様、ベテラン教官の交代要員として教員確保に向けた継続的な対応が必要で、多方面に働きかけを継続する。</li> <li>・グランドサポート学科では、引続き企業からの講師受入れを継続する。</li> <li>・教員数の推移は、R4年度⇒R5年度は総勢15名で変化なし。</li> <li>R6年度、航空整備学科で2名減となり総勢13名体制で実施している。</li> </ul>

13	関連分野における先端的の知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校及び学科で研修計画を立て、教員の指導力育成、先端的な知識・技能等の習得を組織的に行えるよう整備を進めていて、業界団体や企業等と連携した研修を行っている。</li> <li>・連携企業からの情報を共有する事により各教員の資質向上に活かしている。</li> <li>・令和5年度企業と連携した研修実績 航空整備学科:教員一同参加の教員研修は1社1回。個別の研修は4社7回参加出来た。 グランドサポート学科:企業研修1回、協会研修1回参加出来た。</li> </ul>
14	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	関連企業と連携した研修を行い、職員の能力開発に努めている。

13:人材育成目標の達成に向けて、教員一人ひとりが自ら自己研鑽に努めると共に、業界団体や企業等との連携を図っていく。また、そこで得た知識や経験を教育活動にフィードバックし人材育成の指導力向上に繋げていく。

14:今後、航空技術協会をはじめ専門分野に関する研修への参加を計画し、更なる能力開発に努めたい。

#### (4)学修成果

評価 3.8 (前年3.6)

#### (4) 学修成果

評価 : 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

評価項目	評価	状況と課題
1 就職率の向上が図られているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度の就職内定率は100%(令和4年度と同様)。卒業生33人に対し全員が内定した。</li> <li>・継続して第1志望企業への100%就職を目指し、補習教育・通常授業外面接指導にて就職内定率100%維持を目指した。</li> <li>・新型コロナウイルスの感染が落ち着き、航空旅客需要がコロナ感染前に近づく中で航空関連企業の採用意欲も増加し順調に推移した。実績として全員が第一志望とはならなかったが、内定率100%を達成した。</li> <li>・令和5年度はSPI(一般教養)に関して選任教師をアサインし、就職活動に活かした。</li> </ul>

#### 【今後の改善方策】

1:  
 ・第一志望企業への内定を獲得するため、SPI、面接指導、企業研究、就職に有利な資格の取得等、就職指導の内容を引き続き向上させていく。  
 ・令和6年度もSPI(一般教養)は、選任教師を継続アサインして授業中。

2	資格取得率の向上が図られているか	4 前年 評価 3	<p>・資格ごとの合格率と学習効果を評価し、教材の変更や教え方の改善を常に行っている。</p> <p>・航空整備学科では、二等航空運航整備士資格取得は受験者15名に対し、全員が合格。学生の不断の努力の賜物ではあるが、授業以外の放課後・休業期間中の資格試験対策等、教員も全力でサポートした結果でもある。</p> <p>令和4年度は残念ながら1名が合格できなかったが改善した。</p> <p>・航空整備学科では、1年次にコース分けを実施するが、その見極めの為の判断基準に『適正試験』を導入した。</p> <p>・グランドサポート学科では、危険物(乙種第4類)の合格率は21%で、こちらも昨年度(R4年度)合格者ゼロから改善した。</p> <p>・危険物資格の取得実績は、航空整備学科 7名受験し 4名合格(合格率57.1%)、グランドサポート学科 19名受験し、合格者4名(合格率21%)。</p> <p>・英語検定に関し、当校を検定会場(準会場)と開催する方式を令和5年度途中から再開した。</p> <p>～R5年度実績。受験者数:第2回16名、第3回20名(第1回は未開催) 合格率:第2回一次38% 二次31%、第3回一次35% 二次30%</p> <p>・英会話カリキュラムの一部を、会話から英検対応に変更した。(航空整備学科)</p>	<p>2:</p> <p>・航空整備学科:航空従事者養成施設として、二等航空運航整備士資格取得は責務と捉えている。</p> <p>・グランドサポート学科:危険物乙種第四類の合格率は引続き40%を目指す。</p> <p>～当該資格の取得意義等をじっくり説明し、学生のやる気を引き出し、取組む姿勢を見直して継続して合格率向上につなげたい。</p> <p>・英語検定に受験者数、受験級合格率向上を目指す。</p> <p>・英会話カリキュラムの授業時限を増やし合格率向上につなげたい。(1年生16時限増、2年生10時限増)</p>
3	退学率の低減が図られているか	4	<p>・欠席が多い学生に対し、早い時期から担任・学科長が保護者と連携して対応している。</p> <p>・令和5年実績:退学者0名(令和4年実績:1名)</p>	<p>3:心身面や経済的な事情を抱えている学生に対して、継続して各学科と教務・進路情報・事務部が連携を図っていく。又、各担任が学生とコミュニケーションを密にし、小まめな対応を継続する。</p>
4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3	<p>社会的活躍については、必要に応じ可能な限り情報収集を心掛けている。在校生の状況は担任が把握しており、必要に応じて校務会議で報告している。</p>	<p>4・5:</p> <p>・学科では、卒業生の勤務先企業等(学科特有の業界)と交流する機会(企業説明会、企業見学会)を設け、卒業生の活躍状況、採用側からの評価を把握することに努めていく。</p> <p>・教育課程への意見や提案を聴取し専門分野のキャリア教育の構築を図っていく。</p>
5	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	<p>・卒業生の動向は、広報を中心にキャンパスガイド・媒体誌の記事作成のための取材を通じて本人や企業からの情報を収集し、教育活動の改善に役立っている。</p> <p>・卒業生の来校時を捕らえて自身のキャリア形成状況を聞き取り、在校生の授業や学科運営に反映している。</p>	<p>4・5:</p> <p>・学科では、卒業生の勤務先企業等(学科特有の業界)と交流する機会(企業説明会、企業見学会)を設け、卒業生の活躍状況、採用側からの評価を把握することに努めていく。</p> <p>・教育課程への意見や提案を聴取し専門分野のキャリア教育の構築を図っていく。</p>



## (5) 学生支援

評価 3.8

(5) 学生支援		評価 : 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1		【今後の改善方策】
	評価項目	評価	状況と課題	
1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路・就職に関する担当者、学科ごとに就職担当者を配置しており、求人情報の閲覧スペース、企業対応のため進路指導室を設置している。求人情報は管理されており閲覧可能な状態である。又、両学科共にカリキュラムとして「就職指導」の授業を設け支援している。</li> <li>・就職先の選択肢を拡げるべく、新たな就職先につき担当者間で協議検討を重ねている。</li> </ul>	1: <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生を就職させることは学校の使命であり、全員が内定を得られるよう継続してその支援にあたる。</li> <li>・より綿密な就職支援を実現するため、就職担当者と各学科の担当者と連携を密にし、きめ細かい就活支援に努めていく。</li> </ul>
2	学生相談に関する体制は整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生相談に関する体制は、クラス担任を中心に学科及び教務課により支援している。日常の学生行動を注視して悩み等を把握するように努め、担任を中心に保護者を交えて対応を行っている。</li> <li>・悩みを抱えている学生への対応として専任カウンセラーを設置した。 ～R5年度は整備学科の学生2名が受診した。</li> </ul>	2: 学生相談においてメンタル面で問題を抱える学生への対応については、担任を中心に校内組織で事態の深刻化を回避する体制を整えている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンセラーの常時設置は困難な状況であるが、必要時の臨時設置は継続したい。</li> </ul>
3	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の経済的支援については、高等教育の修学支援新制度(高校の成績による入学金免除制度)、日本学生支援機構奨学金、茨城県奨学資金、教育ローン等の支援体制があり、高等教育支援制度については募集要項に明示している。</li> <li>・R5年度(*)に当校独自の特待生奨学制度(成績優秀者に対する特待制度)を導入し、経済的に不利であっても努力している学生への支援を強化した。</li> <li>(*)対象は、R6年度入学生対象</li> </ul>	3: 学生に対する経済支援に関し、各種支援制度を継続して運用したい。
4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の健康管理を担う組織体制は整備されている。保健室を設置しており、職員室前にAEDも設置している。</li> <li>* 令和5年5月8日から新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことから文科省、私学振興室からの指示に従い、特段の感染症対策は取りやめている。</li> <li>・R5年度 新型コロナウイルス感染者数:14名(学生は9名)で、全員が重症化しなかった。</li> <li>・インフルエンザ感染者が9月以降急増し、12名が感染した。</li> </ul>	4: 引き続き文科省、私学振興室の指示に従い必要に応じて専門機関に協力を依頼し対応する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・R6年度、現時点での新型コロナウイルス感染者は9名(学生は6名)となっている。</li> </ul>
5	課外活動に対する支援体制は整備されているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>以前は一部学生から部(クラブ)の創設の声もあったが現在はない。学生に時間的余裕がないこともあり、現状は課外活動に対する支援体制は実施していない。</li> </ul>	5: サークル(部)の設置は、今後学生の希望を把握し、体制を検討していく。現在、昼休みと放課後にエプロンの一部を運動スペースとして解放し多くの学生が利用している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>* 運動用具として、野球用グラブ・ボール、サッカーボール、バドミントンラケット等準備している。</li> </ul>

6	学生の生活環境への支援は行われているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新校舎新築(1号館)に伴い、学生の学習環境は改善された。</li> <li>・以前(令和2年度まで)は食堂を完備していたが、新校舎建設に伴い運営と経費上の観点から廃止となった。食堂に替わる昼食の手当は、以前から実施している弁当による注文受付を継続している。</li> <li>・毎週2日(月、水)に弁当の販売、隔週の火曜日にパンの販売を実施している。</li> <li>・生活面では、通学の便を図るためのスクールバスを運行しており、自動車・バイク通学をする学生には駐車場を完備している。</li> <li>・通学が困難な学生のために指定寮(2食付)を紹介している。 ～指定寮の紹介はR5年度で紹介を終了。その他、指定アパートは継続して紹介している。</li> </ul>
7	保護者と適切に連携しているか	4	<p>学生指導面を中心に担任が保護者と連絡を密に対応している。状況に応じて学科長や教務課が関わっている。</p>
8	卒業生への支援体制はあるか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の継続学習や資格取得の支援を行っているが、近年は実績がない。(卒業生からの要望がない)</li> <li>・航空整備学科:平成30年度に卒業生1名を受入れ、本校で2等航空整備士を受験し資格を取得して以来実績がない。</li> <li>・グランドサポート学科:令和2、3年度と卒業生の就職先企業に於ける特殊器材運転資格取得訓練を受け入れ、学校の器材を提供した。昨年度は実質的な訓練はなかった。</li> <li>・就職活動に関しては、既卒者からの支援依頼は少ないが、都度相談に乗っている。</li> </ul>
9	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度以降の実績はなく、過去の実績を記載する。</li> <li>①令和元年度:企業職員の資格取得支援のため施設設備を貸し出した。(基本技術Ⅱの国家技能審査を当校にて実施)</li> <li>②平成30年度:企業職員の資格取得支援(工場整備士資格取得)のため、教官1名の派遣を行った。</li> <li>・今後は、社会人向けの講習会や講師派遣の体制を整備、検討していく。</li> </ul>
10	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校からの依頼により、職業教育の一環として模擬授業を継続して実施しており、好評を得ている。</li> <li>・令和5年度の実績:1校にて開催。(R4年度の実績:2校実施)</li> </ul>

6: 毎日の弁当手配は継続しつつ、並行して安定的な昼食の手配(デリバリー体制の構築)が得られるよう検討している。

7: 近年は、学生指導面に限らず、就職活動に関して保護者からの問合せもあり、就職担当者を含めきめ細かく対応してゆく。

8: 当校として、卒業後3年未満の学生に対して就職活動への支援を今後も積極的に行っていく。

9: 社会人や企業からの要望を収集し、可能な範囲で講習会や講師派遣、施設の貸し出し等継続して行く。

(6)教育環境

評価 4.0 (前年評価3.6)

(6)教育環境		評価 : 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1		【今後の改善方策】
評価項目	評価	状況と課題		
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2等航空運航整備士・基本技術Ⅱの航空従事者養成施設としての施設・設備は整えている。2年毎に実施される航空従事者養成施設更新検査にて施設検査も行われ適切に対応している。</li> <li>・専門教育に必要な施設設備は指定基準を満足しているものの中長期計画の中で、実験実習機材等の一層の整備・充実を図る必要がある。</li> <li>・航空整備学科、グランドサポート学科が使用している『西棟』は、新校舎建替計画の一環で、実習棟と合わせ来年度中の使用開始に向け計画が進んでいる。</li> </ul>	<p>1: 今後予想される 学生増への対応と 国土交通大臣指定 航空 従事者養成施設 として十分な実習を行う為、施設・設備の充実を図る。</p> <p>・グランドサポート学科の実習授業で使用中のGSE関連機材は早目の更新が必要で対応している。</p> <p>2: 企業研修に関して学校側から企業担当者に積極的にアプローチし、研修中の学生に関する情報を今まで以上に共有化する。</p> <p>3: 防災体制の強化として、取手消防署と連携した防災訓練も検討していく。</p>
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科に合わせた実習・企業研修は整備されている。</li> <li>・現在企業研修という形で、グランドサポート学科を中心に内定先企業に参加し有効に機能している。</li> <li>・海外研修は計画していない。</li> </ul>	
3	防災に対する体制は整備されているか	4 前年 評価 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震・火災を想定した防災訓練は年1回計画している。</li> <li>～令和5年度は6/14(水)に全校で避難訓練を実施した。</li> </ul>	

(7) 学生の受け入れ募集

評価 4.0

(7) 学生の受け入れ期間		評価 : 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	
評価項目	評価	状況と課題	【今後の改善方策】
1 学生募集活動は、適正に行われているか	4	<p>・令和5年度の学生募集活動は適正に行い、入学者数(令和6年度入学)の実績では対令和4年度学生募集(令和5年度入学)の12%増と少しずつ増加傾向にある。</p> <p>・令和5年度より、募集活動の中心である高校訪問だけでなく、Web、SNS(インスタライブ)の運用にも注力した。</p> <p>・オープンキャンパスの開催日程が多いことのデメリットとして、1回あたりの動員数が少なく参加者の不信感に繋がっていたため、開催日程を40%程度削減し1回あたりの動員人数を増やしたことで、“人気のある学校”の印象づけに努めた。</p> <p>～R5年度実績13回開催231名参加。(R4年度29回開催175名参加)</p> <p>・令和4年度に引き続き全国工業高校校長協会主催の工業高校の先生向けイベントを開催し、航空業界の認知度向上を図った。</p> <p>航空整備学科:航空機整備工場見学・体験会を開催(8月)2名参加。                      グランドサポート学科:空港内制限区域等見学・体験会を開催(8月)2名参加。</p> <p>・航空業界を目指す高校生向け空港見学イベントを実施していたが、令和5年度より『そらキャン』と題し引き続き実施。保護者の参加も認めたこと、協力企業数を増やしたことで、動員数が増加した。(応募総数:88組)</p>	<p>1:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度に引き続き、国内広報課と連携したイベントを企画し、積極的な参加で入学者増を目指す。</li> <li>①高校生及び保護者対象の空港見学イベント『そらキャン』の開催。</li> <li>②工業高校の先生向けイベントとして、全国工業高校校長協会主催のエプロン見学会、航空機整備工場見学会を開催し、航空業界の認知度向上を図り入学生増に繋げる。</li> </ul> <p>・オープンキャンパスについては、更に回数の見直し(削減)と内容の充実を図り、短期集中型で入学者増を目指す。</p> <p>・学校推薦型選抜入試には適性検査、一般選抜入試には筆記試験を導入し、入学前に入学対象者の基礎学力レベルを把握し、入学後の指導方針に繋げる。</p>
2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	<p>学校パンフレット、ホームページ、進学情報媒体等において、特徴ある教育活動、学修成果等について正確に分かりやすく紹介している。高等学校等における進学説明会に参加し教育活動等の情報提供も行って</p> <p>いる。</p> <p>継続的な高等学校への訪問により、高校教員の航空分野の将来性についての理解、信頼出来る航空専門学校としての位置付け向上に繋がっている。</p>	<p>2: 昨年に引き続き、連携企業イベント見学会(空港見学会・航空機整備工場)を高校の先生向けに開催(夏季に予定)することで、航空業界の認知度向上を図り学生募集に繋げたい。</p>
3 学納金は妥当なものとなっているか	4	<p>学納金等徴収する金額はすべて明示しており妥当なものといえる。また、入学辞退者の授業料返還については、文部科学省通知の趣旨に基づき適正に取扱っている。</p> <p>学納金の支払い方法は分割でも可としているが、事前に提出されている納金計画通りに納金していない学生について、適切に納金してもらうため、学科・担任と情報共有を行い、学生への働きかけや納金計画の確認などを行える体制を構築している。</p>	

## (8)財務

評価 4.0

(8)財務		評価 : 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1		【今後の改善方策】
評価項目	評価	状況と課題		
1	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	令和5年度は新型コロナの影響により留学生が減ったため、成田国際航空専門学校は赤字であったが、学園としては教育収支、経常収支ともに黒字であり、財務基盤は安定している。	1:財務基盤の安定には、入学者確保や退学者の低減、経費節減に努めていかななくてはならないことを全教職員の共通理解として取り組む。
2	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	令和5年度予算、収支計画に従って運営されている。	
3	財務について会計監査が適正に行われているか	4	公認会計士による年2回の会計監査が法定通り行われている。	
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4	ホームページへの公開ほか希望者への閲覧体制を整えている。	

## (9)法令の遵守

評価 3.6

(9)法令の遵守		評価 : 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1		【今後の改善方策】
評価項目	評価	状況と課題		
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	法令遵守に留意し、学校教育法、私立学校法、専修学校設置基準をはじめとする関係法令に基づいた学校法人運営、学校運営を行っている。	2:学校法人で定めている個人情報管理規程をもとに、個人情報の取り扱いに関する体制・基本ルール、保有する情報の紛失、漏えい、改ざん等を防ぎ、情報管理に関する社会的責任について教職員の共通理解を図っていく。 3:評価結果の分析により課題点を明確にすること、その課題をどう解決していくかまでの検討をしっかりと行い、実行に移すまでの流れを構築していく。
2	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	3	個人情報保護に関する対策は、法律及び学校法人で定めている個人情報管理規程に則り学内情報の管理を実施している。しかし、情報の取り扱いが社会問題化していることから教職員間の再認識、共通理解が必要である。	
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3	・自己評価に関しては、学校関係者評価委員会開催前に自己評価委員会を開催し実施している。 ・自己評価委員会では分析検討を行って問題はないが、分析、課題、改善方策を含めてその過程に於ける情報共有について改善の余地がある。	
4	自己評価結果を公開しているか	4	評価結果は報告書として閲覧可能な状況になっており、ホームページに掲載するなど広く社会に公表している。	

(10)社会貢献・地域貢献 評価 3.3

(10)社会貢献・地域貢献		評価 : 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1	
評価項目	評価	状況と課題	【今後の改善方策】
1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和2年度以降、学校の施設活用についての実績はないが、各種国家試験会場として教室の提供を行っている。</li> <li>・英語検定(一次試験)は令和元年度以降3年振りに当校を会場として再開した。</li> <li>～R5年度実績:2回開催して、40名(併願1名を含む)が受験した。</li> <li>・当校は所在地である小堀地区の災害時避難場所に指定されている。</li> <li>・エプロンを緊急時のドクターヘリの離着陸場とし、校舎を災害時の避難場所として地域へ便利供与している。</li> <li>ドクターヘリの実績は過去3回 (2018年8/3日、2020年8/5日、2023年4/4日 )</li> <li>・令和5年度も前年度に引続き、当校にて求職者支援訓練(*)を当校の教室を利用し開催した。(令和3年度より実施)</li> <li>(*)厚生労働省管轄の独立行政法人が主催し学校法人が実施。</li> </ul>	1:社会・地域貢献のために、学校の施設提供を積極的に進める。 ・英語検定は準会場として英語協会指示のもと継続して開催する。 ・R6年度中に以下の契約を締結予定。 ～東海村原子力発電所での事故発生時の避難所として当校を利用する案件に関し、茨城県原子力安全対策課を窓口を検討中。
2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3	ボランティア活動については、学生個々にて実施している。引き続き学校全体として積極的に奨励、支援していく。	2:ボランティア活動は、地域社会への貢献ばかりでなく、学生の人格形成や職業意識の向上に繋がるものと考えられ、活動支援ができるよう体制構築を考える。 ・学校が主体となって、小堀地区での清掃を中心としたボランティア活動を検討する。
3 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去の実績として、業界人向けの教育受託として、企業職員の資格取得支援のため教官の派遣を行った。</li> <li>・近年派遣の機会はない。</li> </ul>	3: ・今後、社会人向けの講習会や講師派遣の体制を整備・検討していく。 ・地域貢献のために各種国家試験会場提供や、地元の小・中学生を対象とした職業観の育成に役立つ講座等を検討していく。